

2026年5月8日

各位

スカパー J S A T株式会社  
代表取締役 執行役員社長 米倉 英一  
(コード番号：9412 東証プライム市場)  
広報 IR 部長 松藤 浩一郎  
TEL. 03 (5571) 7800

(訂正)「スカパー J S A Tグループ 2026年3月期  
通期決算説明会資料」の一部訂正について

2026年4月28日に開示いたしました決算説明会資料に一部誤りがございましたので、以下のとおり訂正いたします。なお、発表済みの決算短信に訂正はありません。

記

1. 訂正の理由

「2026年3月期通期決算説明会資料」21ページ「安全保障領域の収益目標」FY2026の数値に誤りがありました。

2. 訂正の内容

(誤) スペースインテリジェンス事業： 96億円  
通信関連事業： 101億円

(正) スペースインテリジェンス事業： 113億円  
通信関連事業： 84億円

以 上

---

<お問い合わせ先>

スカパー J S A T株式会社 広報 IR 部

TEL：03-5571-1515 (IR 担当) E-mail:ir@skyperfectjsat.co.jp

03-5571-7600 (広報担当) E-mail:pr@sptvjsat.com

<公式ホームページ・SNS アカウント>

HP：<https://www.skyperfectjsat.space/> X(旧 Twitter)：[https://x.com/sptvjsat\\_pr](https://x.com/sptvjsat_pr)

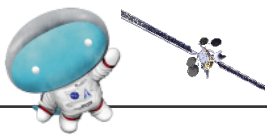
証券コード：9412

スカパーJSAT株式会社



# 2026年3月期 通期 決算説明会

2026年4月28日開催



本説明資料に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。

これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。このようなリスクや不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものには、以下のようなものが含まれます。なお、リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意下さい。

## 事業全般

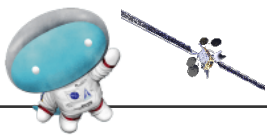
- 事業投資等に関するリスク
- 事業上の法的規制等に関するリスク
- 個人情報及び重要情報の流出や取扱い及びサイバーセキュリティに関するリスク
- 大規模災害、新型感染症等による事業継続に関するリスク

## 宇宙事業

- 衛星通信市場における競争力低下のリスク
- 通信衛星調達に関するリスク
- 通信衛星の運用に関するリスク

## メディア事業

- 有料多チャンネル事業の事業性低下に関するリスク
- 不正視聴に関するリスク
- 顧客管理システムに関するリスク



2025年度当期純利益は、過去最高の233億円  
営業利益・当期純利益は20%超の増益

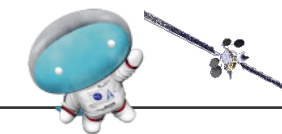
2026年度は宇宙事業、メディア事業共に増収増益  
営業収益 1,350億円、当期純利益 270億円（+37億円）を見込む

引き続き成長投資に軸足を置きつつも、増配による株主還元拡充

宇宙事業を成長ドライバーに、  
2030年度 当期純利益目標を350億円以上に引き上げ



# 2026年3月期 通期連結業績概要



- 宇宙事業の順調な成長やメディア事業のオペレーション最適化が奏功し増収増益
- 営業利益、当期純利益ともに最高益を更新

(億円)	2024年度	2025年度	増減 (増減率)	2025年度通期 業績予想 (修正後)	通期予想 達成率
営業収益	1,237	1,276	+39 (+3.1%)	1,276	100.0%
営業利益	275	353	+78 (+28.3%)	350	100.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	191	233	+42 (+22.0%)	230	101.4%
EBITDA*	458	507	+50 (+10.8%)	—	—

\*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

算出式を、従来の「純利益 + 税金費用 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息」から変更

## ■ 国内衛星通信分野やスペースインテリジェンス事業が計画通り進捗し、 営業収益698億円・セグメント利益161億円と増収増益

(億円)	2024年度	2025年度	増減 (増減率)	2025年度 通期業績予想 (修正後)	通期予想 達成率	増減要因
営業収益*	647	698	+51 (+7.9%)	700	99.8%	(営業収益 +51) 国内衛星通信分野 +31 (JAXA向け地上局サービス等) スペースインテリジェンス事業 +26 グローバル・モバイル分野 +4 為替影響 △2
営業費用	427	457	+30 (+7.0%)	-	-	
営業利益*	220	241	+22 (+9.9%)	239	101.0%	(営業費用 +30) 増収に伴う原価増 +45 減価償却費 △13
セグメント利益**	152	161	+8 (+5.6%)	160	100.4%	

\*セグメント間の内部取引を含む

\*\*セグメント利益は「純利益」ベースの数値

# セグメント別業績概況：メディア事業



- 光アライアンス事業が好調に推移し、視聴料収入等の減少幅を縮小
- 放送事業のオペレーション最適化が奏功し、セグメント利益は77億円と大幅増益

(億円)	2024年度	2025年度	増減 (増減率)	2025年度 通期業績予想 (修正後)	通期予想 達成率	増減要因
営業収益*	655	643	△12 (△1.9%)	641	100.3%	(営業収益 △12) 視聴料・業務手数料・基本料収入 △23 カスタマーセンター子会社の持分法適用会社化 △7 FTTH関連収入*1 +18
営業費用	592	524	△69 (△11.6%)	-	-	(営業費用 △69) 今期の一過性要因 △32 ・「ブンデスリーガ」放送・配信終了 △18 ・カスタマーセンター子会社の持分法適用会社化 △7 ・前期施策(チューナー交換)の反動 △7
営業利益*	63	119	+56 (+90.1%)	118	100.9%	減価償却費 △15 広告宣伝・販促関連費(デジタルシフト等) △7 コネクテッドTV事業関連費用 △2
セグメント利益**	44	77	+33 (+74.3%)	75	103.1%	(その他) コネクテッドTV事業化検証終了に伴う減損 △8 (セグメント利益影響額 △5)

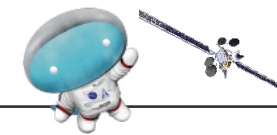
\*セグメント間の内部取引を含む

\*\*セグメント利益は「純利益」ベースの数値

\*1 光アライアンス事業のうち、光再送信サービス収入とテレビ接続工事収入



# 2027年3月期 連結業績予想



## 当期純利益

2025年度  
233億円 → **270** 億円 (+37億円)

- ・ 安全保障を軸に収益基盤の拡大
- ・ 光アライアンス事業の収益力強化

## 成長投資

2025年度  
635億円 → **700** 億円

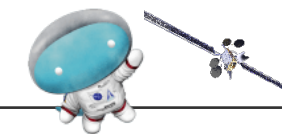
- ・ 更なる成長に向けて投資を積み上げ  
(2025~2027年度累計 約2,200億円)

- ・ ハードルレートを従来の7%→8%に見直し

## 株主還元

2025年度  
年間配当 42円 → **48** 円 (+6円)

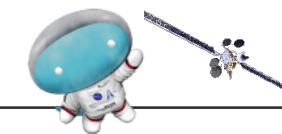
- ・ 配当性向50%以上を継続



(億円)	2025年度 実績	2026年度 予想	増減率
営業収益	1,276	1,350	+5.8%
営業利益	353	390	+10.6%
経常利益	354	390	+10.1%
親会社株主に 帰属する当期純利益	233	270	+15.8%
EBITDA *	507	540	+6.4%

\*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

# 2026年度 セグメント別業績予想



## 宇宙事業

安全保障の成長を主軸に、増収増益を見込む

※2026年度から、映像ネットワーク関連サービスをメディア事業へ移管

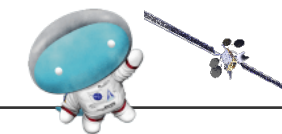
## メディア事業

光アライアンス事業の拡大により放送事業の減収幅を抑え、増収増益を目指す

(億円)		2025年度 実績	2025年度 組替後数値*(a)	2026年度 業績予想 (b)	増減 (b)-(a)
営業収益		1,276	1,276	1,350	+74
	宇宙	698	658	725	+67
	メディア	643	679	680	+1
営業利益		353	353	390	+37
	宇宙	241	231	255	+24
	メディア	119	130	150	+20
連結純利益		233	233	270	+37
	宇宙	161	153	170	+17
	メディア	77	85	105	+20

\*両事業の実質的な成長性を測るため、2025年度は組替後の数値(概算)

# 投資進捗（2025~2027年度 投資計画）



## ■ 2025年度

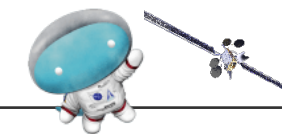
低軌道衛星コンステレーション構築への投資等含め、計画に対し概ね順調に進捗

## ■ 2026~2027年度

宇宙事業の収益基盤強化のための投資を中心に、約1,500億円を計画

2025~2027年度計画		2025年度実績	2026年度見込	2027年度見込
収益基盤強化 約1,400億円	JSAT-31/32、Superbird-9 地上局設備、拠点拡張 放送設備	336億円	500億円	600億円
事業の進化 約600億円	低軌道衛星コンステレーション 光アライアンス設備	254億円	100億円	200億円
新規領域の開拓 約200億円	Space Compass スタートアップ投資	45億円	100億円	50億円
計 約2,200億円		計 635億円	計 700億円	計 850億円

\*金額は支払ベース



- 営業活動を通じた確かなキャッシュ創出力をもとに、積極的な成長投資と安定した株主還元を両立
- 市場環境や財務状況に応じて、外部借入により資金を調達

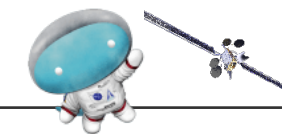
## 連結貸借対照表

## 連結キャッシュ・フロー

(億円)		2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 見込	増減
資産	宇宙事業	2,486	2,907	3,300	+393
	メディア事業	375	361	370	+9
	全社・調整	1,173	809	460	△349
	合計	4,034	4,078	4,130	+52
負債		1,192	1,007	930	△77
	内、有利子負債	551	324	220	△104
純資産		2,842	3,070	3,200	+130

(億円)		2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 見込	増減
営業活動		424	537	540	+3
投資活動		△258	△765	△470	+295
	内、設備・事業投資	△316	△635	△700	△65
フリー・ キャッシュ・フロー*		166	△228	+70	+298
財務活動		△168	△323	△230	+93
現金及び現金同等物		1,145	576	420	△156

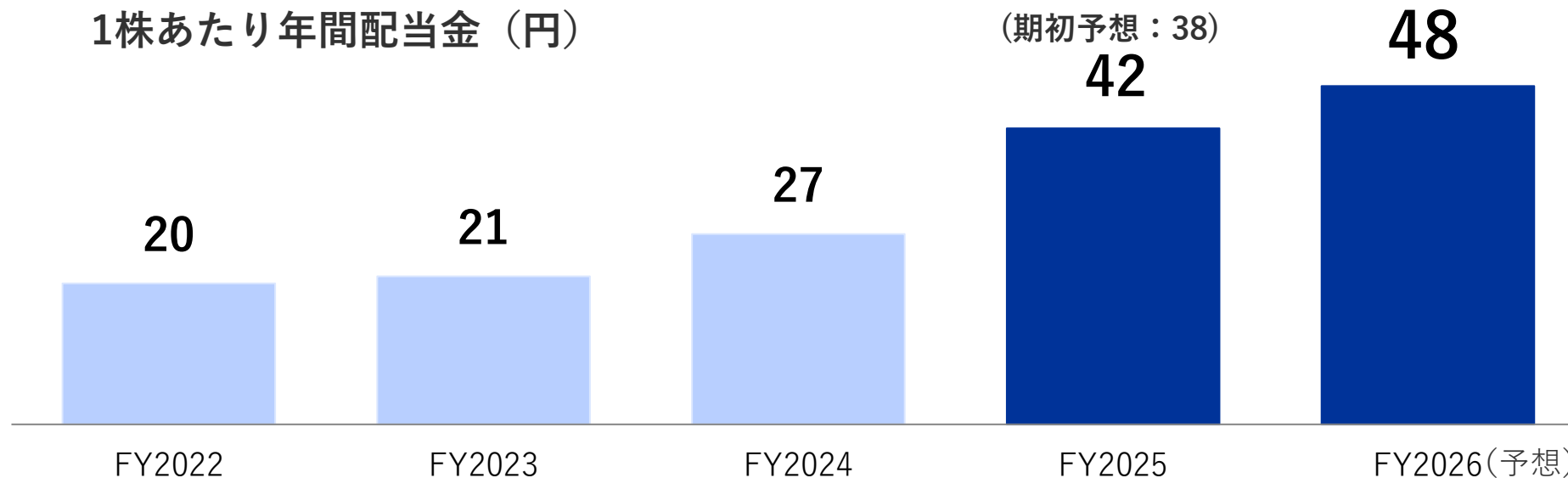
\* 営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー



## ■ 基本方針：配当性向50%以上、機動的な自己株式取得

2027年3月期 配当予想 1株当たり年間 **48円** (6円増配)

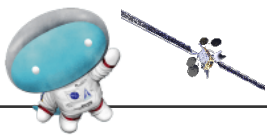
1株あたり年間配当金 (円)



	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026(予想)
配当金総額	58	60	77	119	136
自己株式取得額	—	50	—	—	—
合計	58	110	77	119	136
2022年度以降累計 (億円)	58	168	245	364	500

> 400億円\*

\*2022~2026年度で株主還元400億円(2022年4月28日公表)



企業価値向上への、株主視点を重視した一連の取り組み

成長投資

2025～2027年度：  
2,200億円

株主還元

2026年度：  
配当予想48円

資金調達

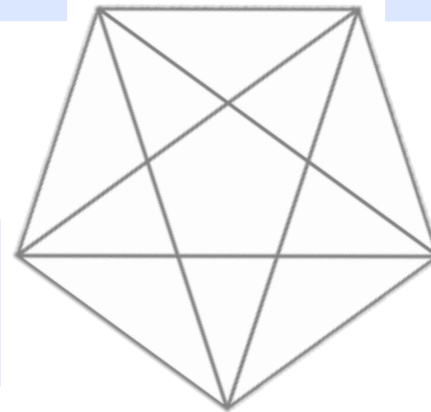
2026年度以降：  
借入を計画

株式付与

役員：株式報酬比率引き上げ  
従業員：株式付与制度導入(新規)

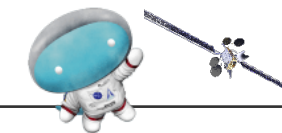
投資管理

ハードルレート7%→8%  
\*当社WACC 7.5~8%（想定）



---

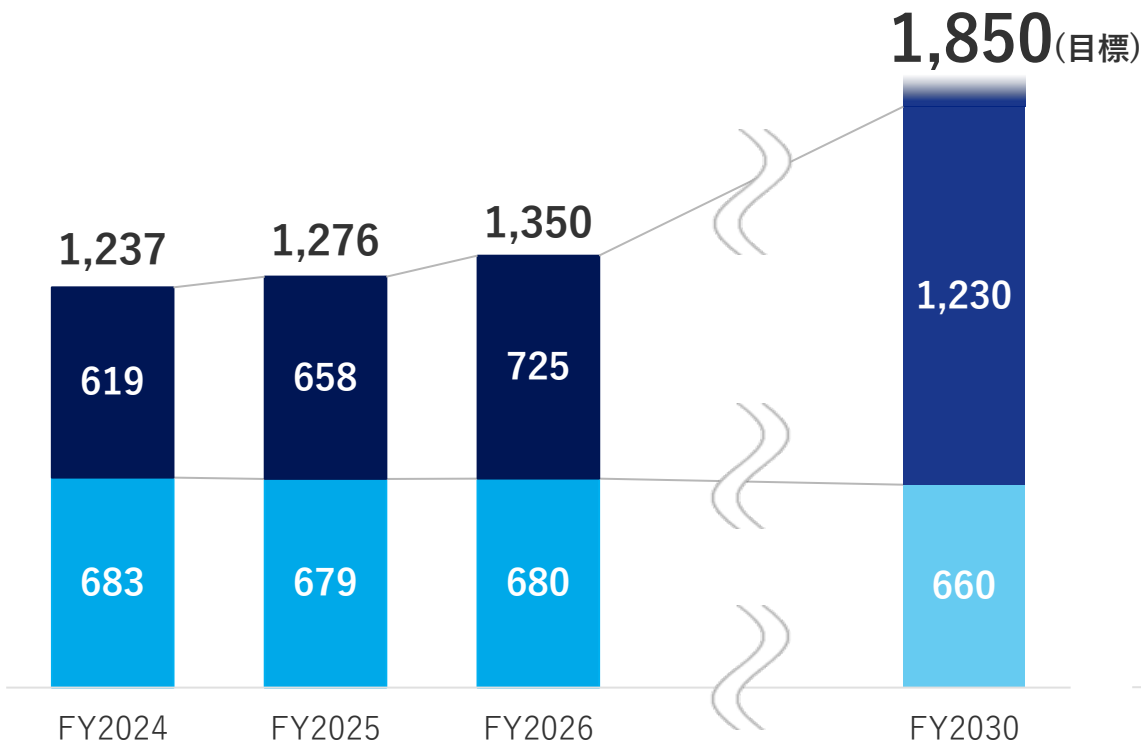
# 2030年度 目指す姿



## ■ 宇宙事業の成長加速により、営業収益1,850億円・当期純利益350億円以上を目指す

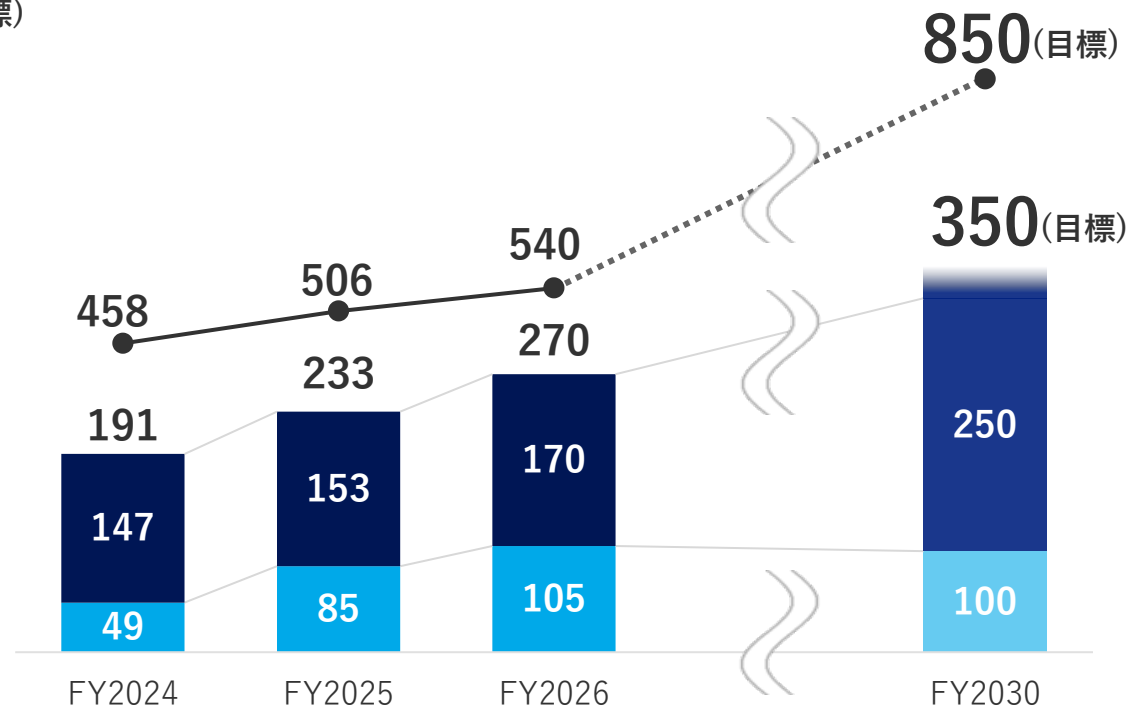
営業収益（組替後）

(億円)



当期純利益・EBITDA（組替後）

(億円)



■ 宇宙事業 ■ メディア事業 — EBITDA

\*2026年度から、映像ネットワーク関連サービスをメディア事業へ移管



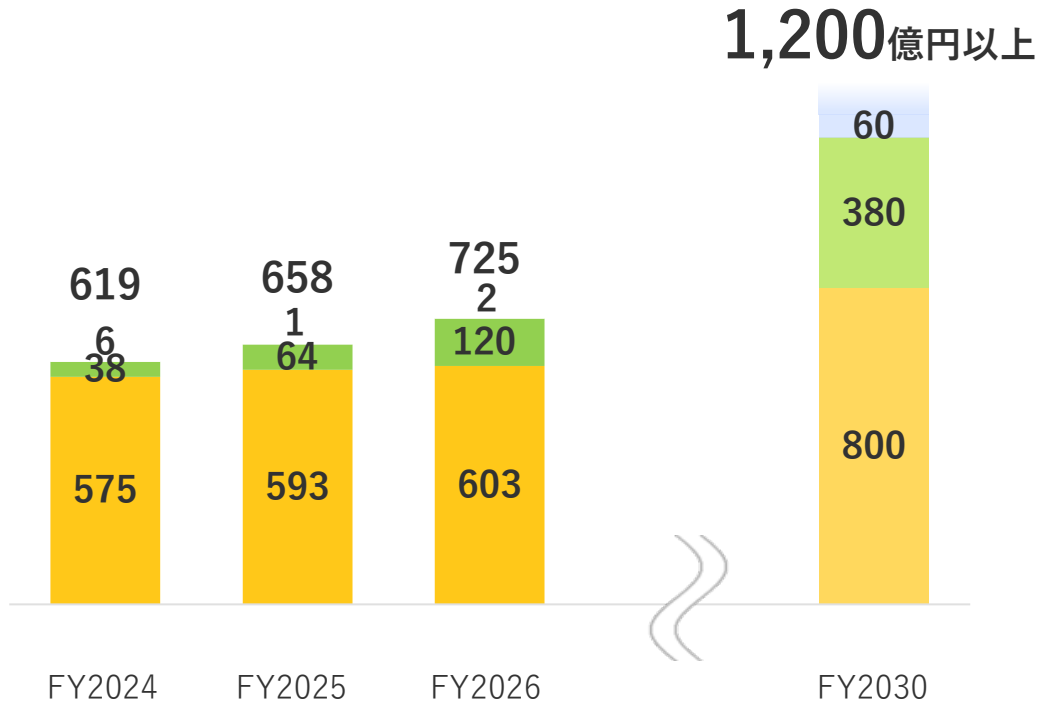
# 宇宙事業

安全保障の成長を主軸とし、衛星通信の安定収益基盤とスペースインテリジェンスの成長力を両輪に成長を加速

- 収益基盤強化
- 事業の進化
- 新規領域の開拓

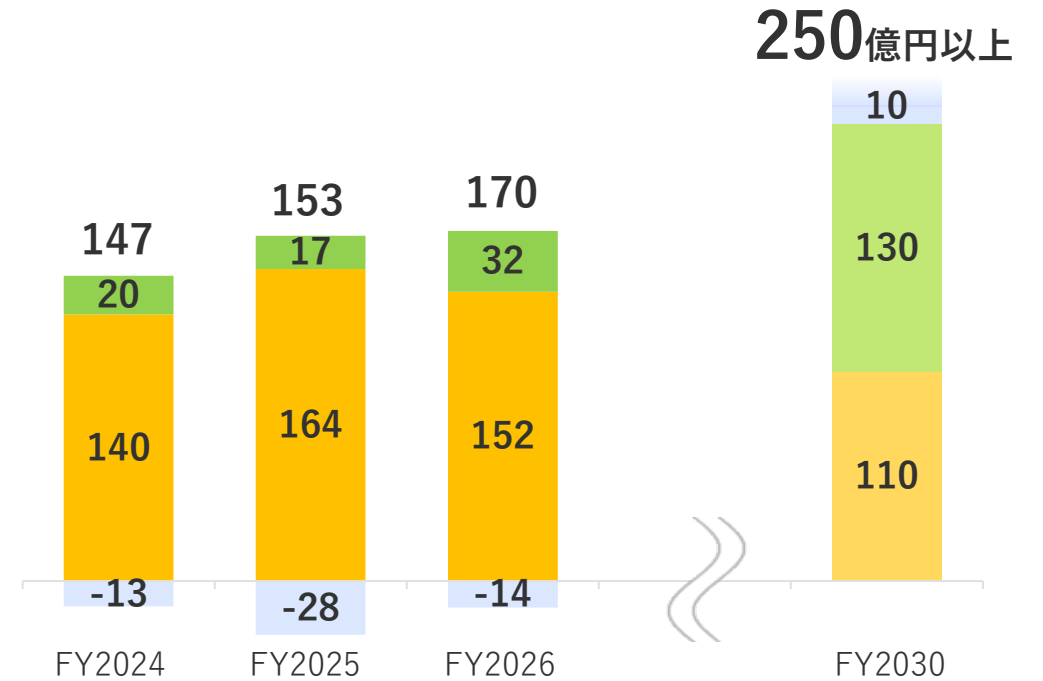
営業収益（組替後\*）

(億円)



セグメント利益（組替後\*）

(億円)



■ 通信関連事業
 ■ スペースインテリジェンス事業
 ■ 開拓領域

\*2026年度から、映像ネットワーク関連サービスをメディア事業へ移管

更なる成長投資を進めながら次の成長を支える  
キャッシュ創出力の拡大を目指す

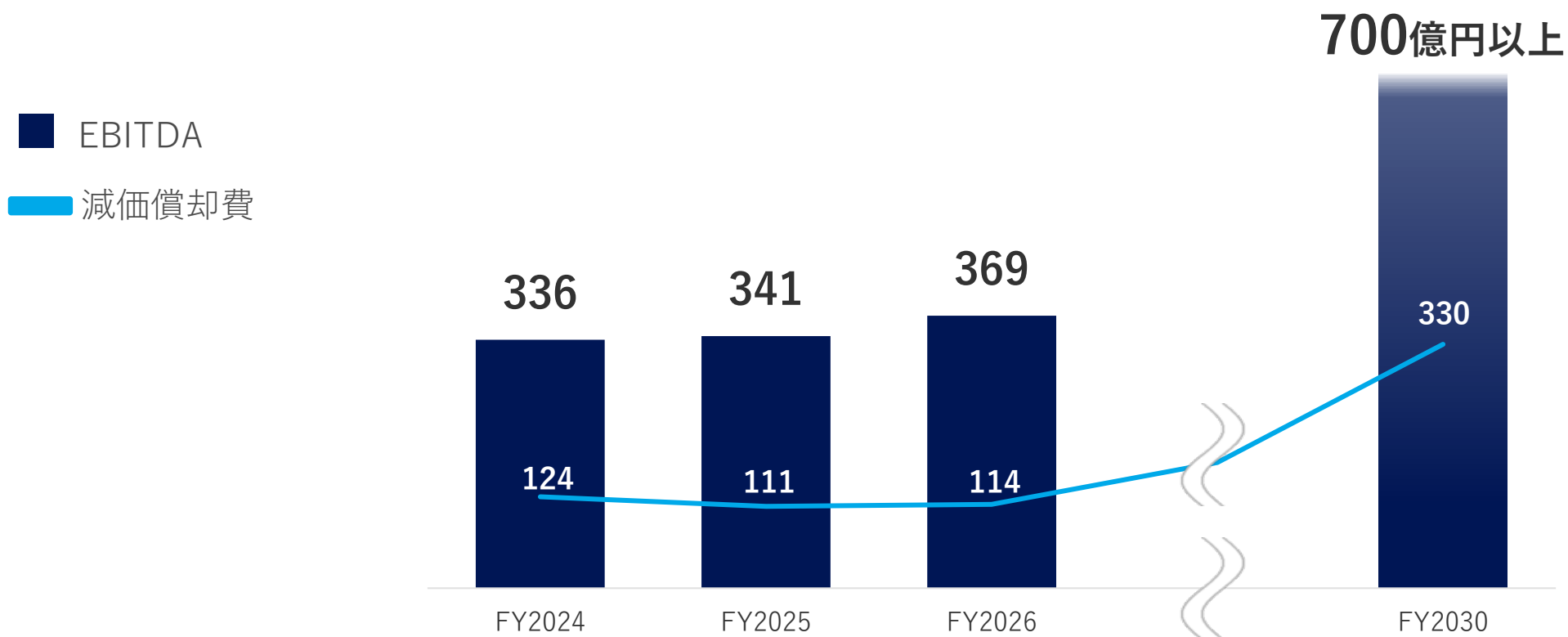
収益基盤強化

事業の進化

新規領域の開拓

EBITDA・減価償却費（組替後\*）

（億円）



\*2026年度から、映像ネットワーク関連サービスをメディア事業へ移管

- 安全保障需要の拡大を成長の追い風に、収益拡大を加速
- 通信の安定収益を基盤に、  
スペースインテリジェンス事業の拡大と開拓領域の事業化を推進

収益基盤強化

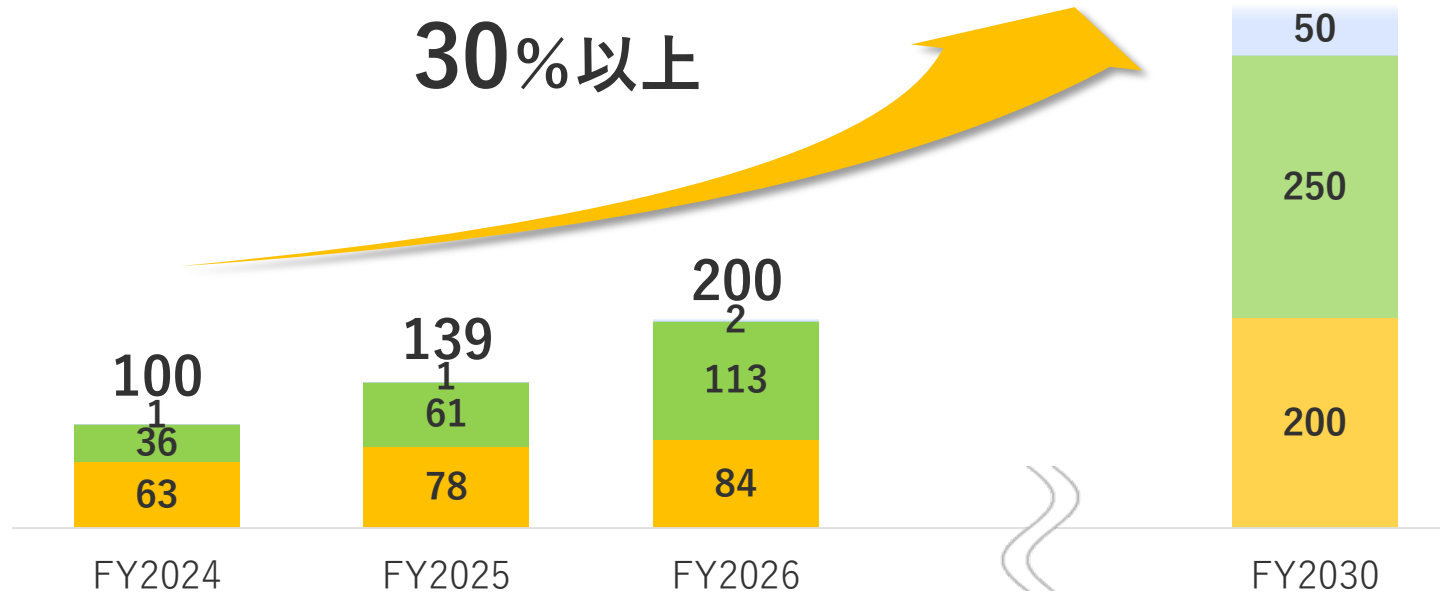
事業の進化

新規領域の開拓

(億円)

CAGR  
30%以上

500億円以上



通信関連事業

スペースインテリジェンス事業

開拓領域

宇宙事業収益に  
占める割合

16%

21%

28%

40%以上

# 安全保障領域の成長を支える需要環境と事業機会

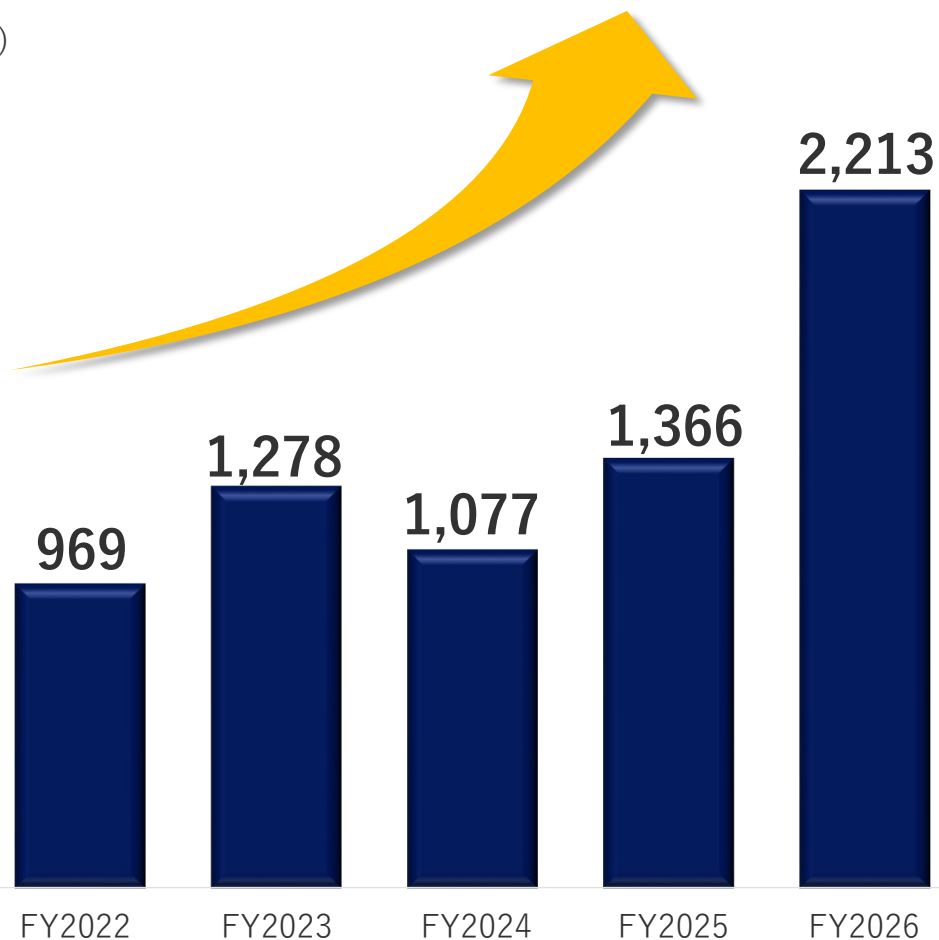
収益基盤強化

事業の進化

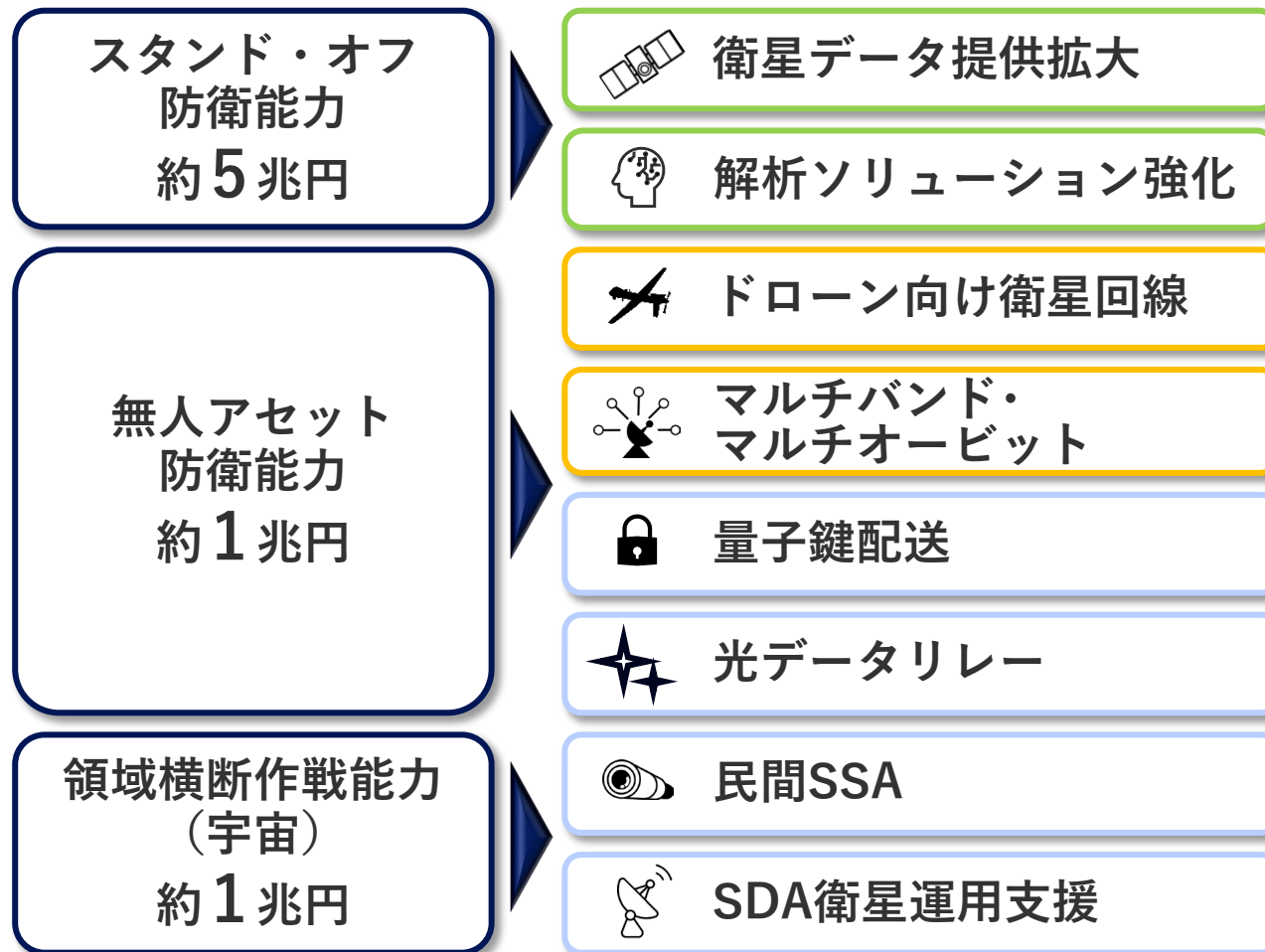
新規領域の開拓

## 防衛省の宇宙関連予算の推移

(億円)



## 防衛力整備計画の重要分野と当社取り組み



\*金額は2023-2027年度の事業費

■ スペースインテリジェンス事業  
■ 通信関連事業  
■ 開拓領域

参照：内閣府「令和8年度当初予算案および令和7年度補正予算における宇宙関係予算について」ほか各年度の同資料をもとに当社にて作成

当社の強みを軸にパートナーの技術・市場を組合せ、宇宙事業を“面”で拡大

収益基盤強化

事業の進化

新規領域の開拓

## 通信関連事業

**KSAT** KONGSBERG SATELLITE SERVICES **NTT**

**ses** Starlink Amazon LEO

BLACK SKY



constellr

Planet Labs



Tenchijin

green carbon



WHERE



**NIPPON KOEI**

**ZENRIN**

## スペースインテリジェンス事業

**SPACE COMPASS**

**SPECTRAL**

**Orbital Lasers**

**ArkEdge Space**

## 開拓領域





# メディア事業

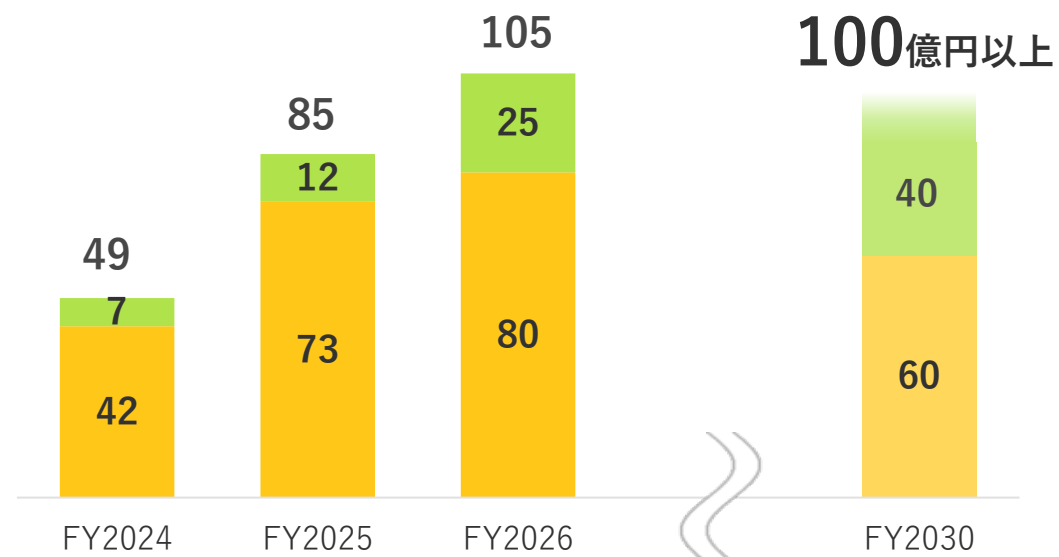
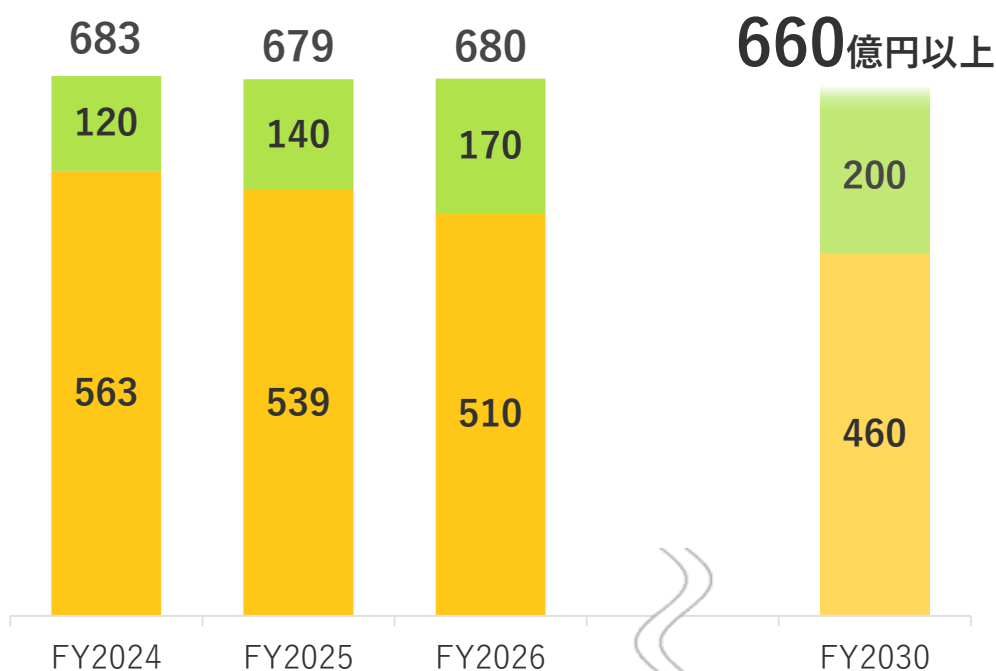
放送事業の収益漸減を、メディアソリューションの成長と、  
光アライアンス事業の拡大により補いセグメント利益100億円以上を維持

営業収益（組替後\*）

セグメント利益（組替後\*）

(億円)

(億円)



■ 放送関連（放送・メディアソリューション・他含む） ■ 光アライアンス

\*2026年度から宇宙事業の映像ネットワーク関連サービスをメディアソリューションへ移管

光再送信サービスの値上げや接続世帯数の拡大により、増収増益を実現  
→ 2030年度には純利益40億円以上を目指す

収益基盤強化

事業の進化

(億円)

## ■ 光再送信サービス

FY2025実績： 297万世帯 (前年度比+11万世帯)

FY2026目標： 308万世帯 (前年度比+11万世帯)

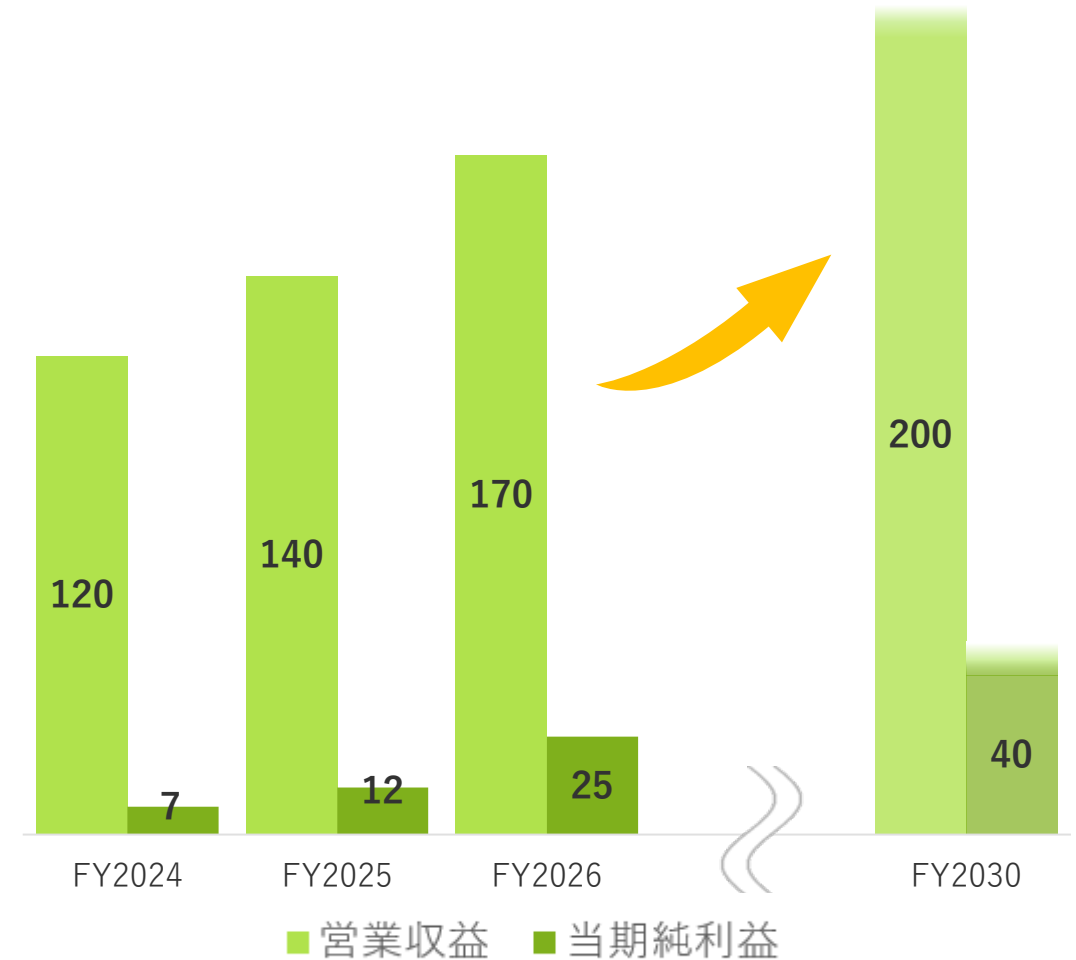
FY2030目標： **350万世帯**

## ■ CATVパススルーサービス

FY2025実績： 75局 (前年度比+15局)

FY2026目標： 90局 (前年度比+15局)

FY2030目標： **110局**



既存資産・放送技術を活用した事業拡張により、  
2026年度営業収益75億円を目指す

収益基盤強化

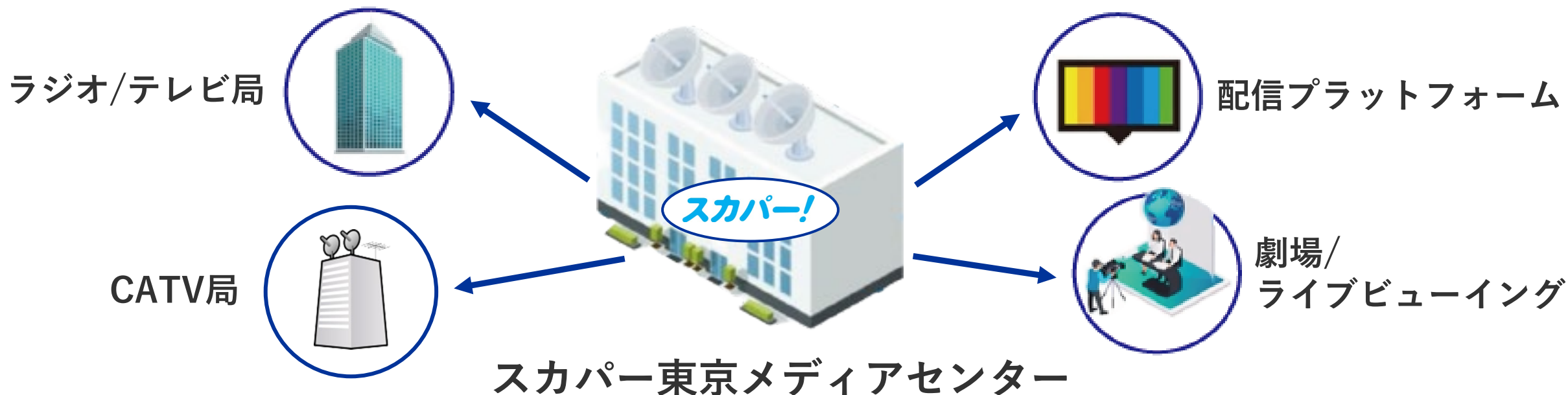
事業の進化

## スカパー！サービスの既存資産・放送技術

- ✓ 映像制作・伝送等の放送技術
- ✓ 24時間365日の運用・監視
- ✓ BCPに活用できる耐久性の高いセンター

## お客様の設備投資・運用コスト低減を実現する ソリューションサービスを提供

- ✓ 映像制作・伝送・監視サービス
- ✓ 提供先に合わせた映像フォーマットへの変換



- 2期連続で黒字達成
- 戦略的な資本提携強化を実施（伊藤忠商事グループ出資比率：17%→49%）
- 伊藤忠商事の国内外商流・グループ各社との連携により、IPの企画・開発から、ライセンス運用・海外展開に至るまで、一気通貫した事業推進体制の構築を目指す

## 2025年度実績

## 今後の予定

### 「フェルマーの料理」



原作：小林有吾（講談社）  
製作：「フェルマーの料理」製作委員会  
（幹事：SPP）  
制作スタジオ：ドメリカ  
話数：全12話  
放送：テレビ朝日  
配信：dアニメストア/Prime Video他  
各種配信サービスで配信

©小林有吾・講談社／フェルマーの料理製作委員会

### 「魔術師クノンは見えている」



原作：南野海風（KADOKAWA）  
製作：「魔術師クノンは見えている」製作委員会  
（幹事：SPP）  
制作スタジオ：プラチナビジョン  
話数：全13話  
放送：TOKYO MX/BS朝日/WOWOW  
配信：dアニメストア/ABEMA他  
各種配信サービスで配信

©南野海風・Laruha/KADOKAWA/「魔術師クノンは見えている」製作委員会

### 「可哀想に！劇場」



日テレ「ZIP!」放送枠内にて全国ネット放送  
（\*一部地域を除く）

©KAWAISOUNI!/スカパー・ピクチャーズ、日本テレビ

未知の大陸、生物、物質。  
進化の歴史とは、未知との遭遇の歴史だ。  
未知へひとたび飛びこめば、  
想像をこえた景色が広がっている。  
好奇心にあふれた仲間が集まる。  
努力を、努力と忘れてしまう場所。  
私たちが魅入られた未知は、宇宙。  
誰かを笑顔にする、誰かの安全を守る、  
新たな価値を見出してきた。  
そしてまだ1%も探れていない。  
残りの99%、  
この地上から宇宙へ広がる空間で、  
世界が驚くビジネスを。  
見たこともないエンターテインメントを。  
人工衛星たちと共に。

# 未知を、 価値に。

宇宙実業社

スカパーJSAT

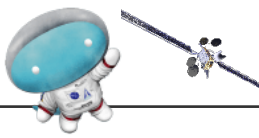


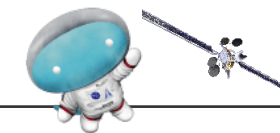
# 参考資料

下記資料については[リンク先（下線）](#)よりご覧いただけます

- ・ [スカパーJSATガイド](#)：経営戦略や財務・業績、事業概要等
- ・ [決算短信・決算短信補足資料、財務ハイライト（Excel）](#)
- ・ [統合報告書2025](#)
- ・ [IRイベント資料](#)







- 2025年度は投資家・アナリストの皆様との個別面談を354件実施
- 定量情報拡充の要望を受け、中長期の営業収益目標等を新たに開示

## 【フィードバック体制】

アナリスト・投資家・株主

社長・CFO、広報IR部

取締役会  
年4回 IR活動報告

企業価値向上に向けた対応

FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
個別面談112件	個別面談188件	個別面談230件	個別面談 <b>354件</b> ↳代表取締役社長対応：38件 ↳CFO対応：19件
<b>【IR施策】</b> 海外ロードショー：米国2回、欧州1回、アジア1回 海外投資家向け証券会社カンファレンス：4回 証券会社主催スモールMTG：4回 個人投資家向け会社説明会：4回 IR DAY 2026：1回			

## 個人投資家様との対面重視

## 事業説明の強化

### 会社説明会（東京・大阪）

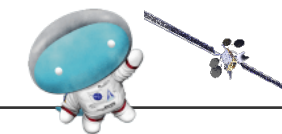


### 宇宙事業 IR DAY 2026

アナリスト・記者向け横浜衛星管制センター見学会、オンライン説明会



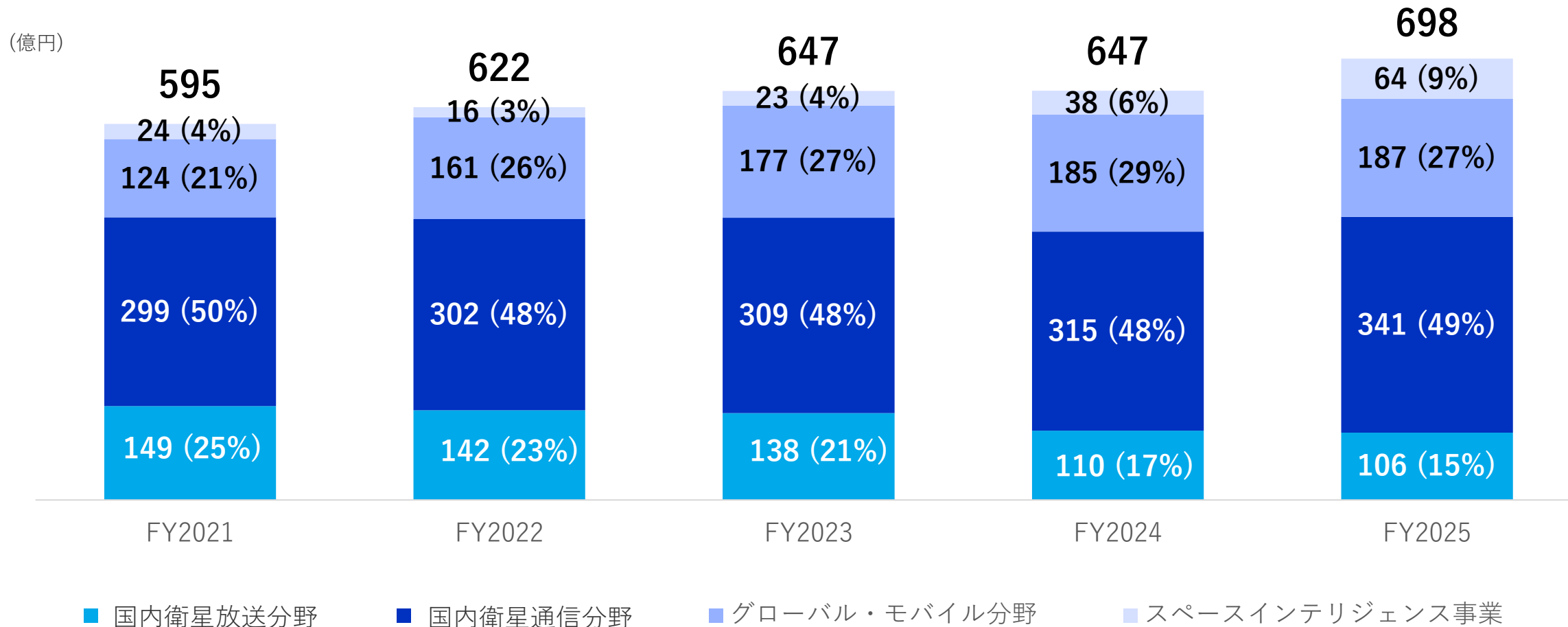
# セグメント別前年同期比較



(億円)	FY2025 4Q (前年同期比)	FY2025 4Q累計 (前年同期比)	主な増減要因	増減		
				4Q	4Q累計	
宇宙事業	営業収益*	193 (+18)	698 (+51)	国内衛星通信分野	+2	+27
				放送トラポン収入	△1	△3
				グローバル・モバイル分野	+3	+2
				スペースインテリジェンス事業	+14	+26
	営業費用	128 (+11)	457 (+30)	増収に伴う原価増	+16	+45
				減価償却費	+1	△13
Orbital Lasers費用				△4	△0	
営業利益*	65 (+7)	241 (+22)				
セグメント利益**	42 (△2)	161 (+8)				
メディア事業	営業収益*	165 (+6)	643 (△12)	視聴料・業務手数料・基本料収入	△6	△23
				FTTH収入	+10	+15
	営業費用	141 (△13)	524 (△69)	広告宣伝・販促関連費	+3	△13
				減価償却費	△2	△15
				カスタマーセンター子会社の持分法適用会社化 ( (株) スカパー・カスタマーリレーションズ)	+0	△7
	営業利益*	24 (+19)	119 (+56)			
セグメント利益**	16 (+12)	77 (+33)	コネクテッドTV事業化検証終了に伴う減損 (セグメント利益影響額)	-	△8 (△5)	

\*セグメント間の内部取引を含む。

\*\*セグメント利益は「純利益」ベースの数値

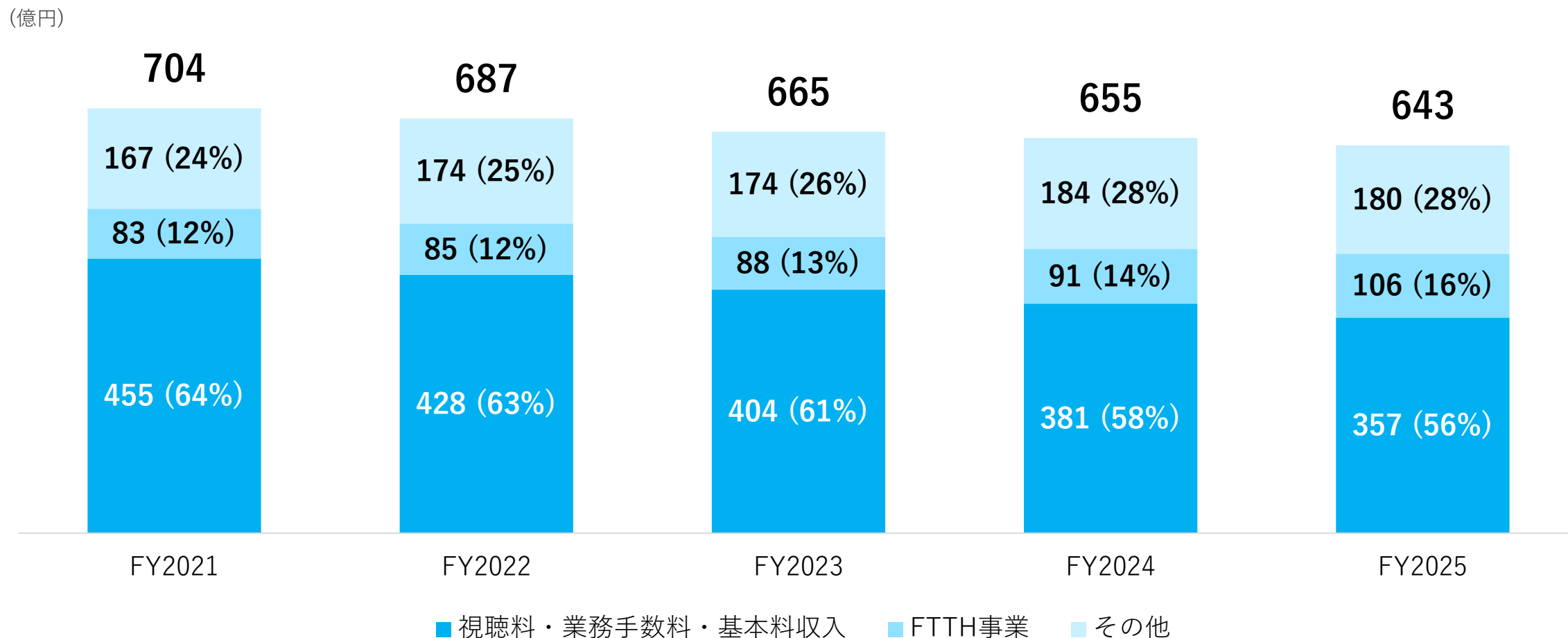


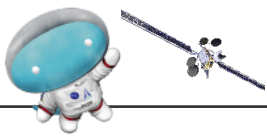
\*2021年度の構成比は、画像販売収入の一部を国内からスペースインテリジェンス事業に組み替えて再計算。

\*2024年度より「新規事業領域」の名称を「スペースインテリジェンス事業」に変更。

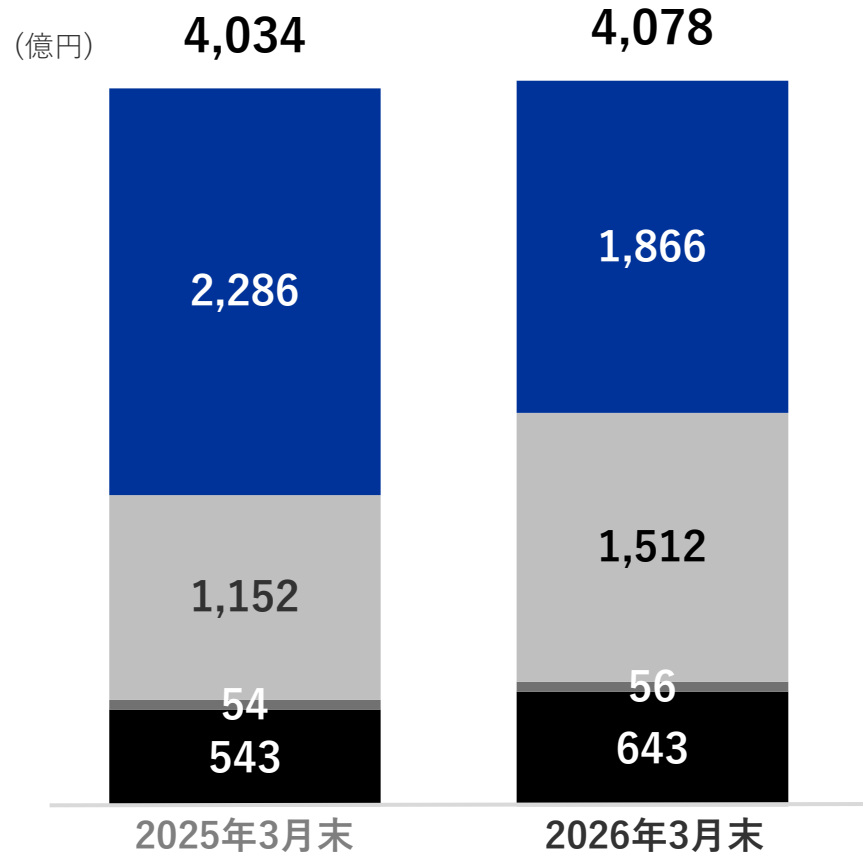
\*2025年10月度以降、スペースインテリジェンス事業の一部（光学関連）の収益認識を、従来のネット表示からグロス表示に変更。

\*本グラフの値について、端数処理の重なりによる実態の数値との差分が発生していたため、FY2021～FY2024の値を一部修正しています。

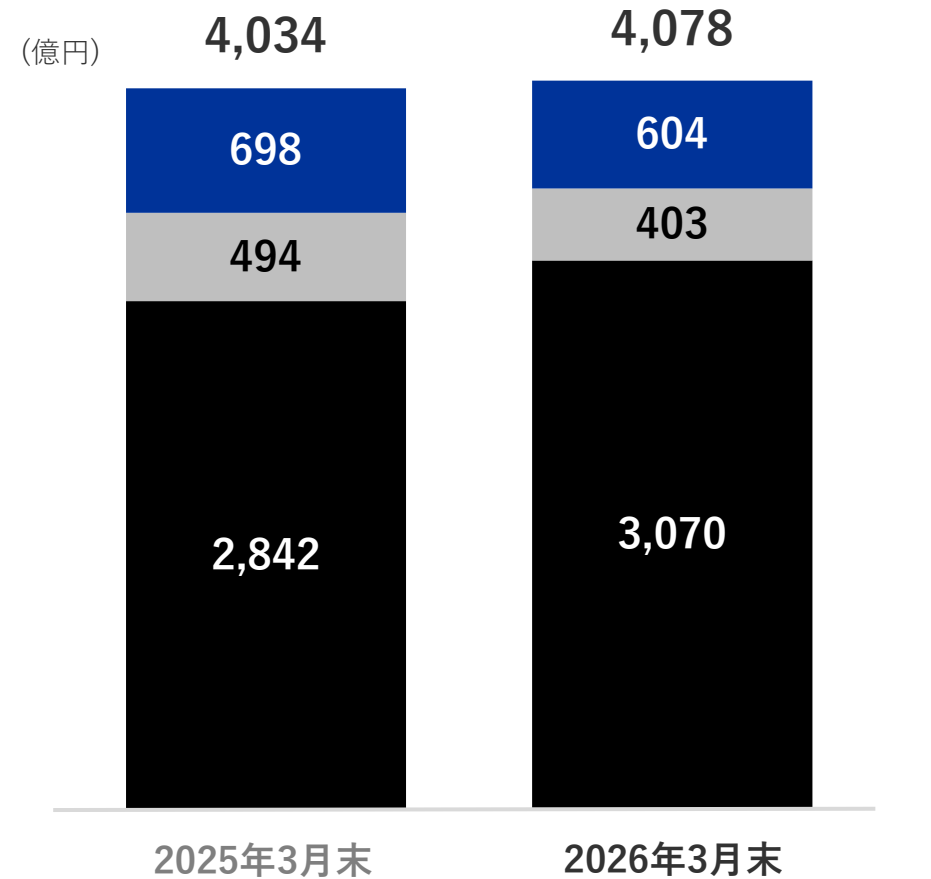




## 資 産



## 負債・純資産



流動資産

有形固定資産

無形固定資産

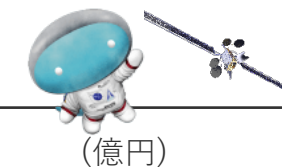
投資その他資産

流動負債

固定負債

純資産

# 主要子会社業績



(億円)

		SJC	SPET	III	JMC	連結合計 (その他の連結子会社 含む)
事業内容		放送プラットフォーム、 衛星通信	衛星基幹放送業務、 衛星一般放送業務等	北米・アジア太平洋 での衛星回線 販売事業	移動体衛星通信 サービス事業	-
保有割合 (%)		100.0	100.0	100.0	53.3	-
営業収益	FY2024 4Q累計	1,119	119	74	60	1,237
	<b>FY2025 4Q累計</b>	<b>1,181</b>	<b>110</b>	<b>69</b>	<b>62</b>	<b>1,276</b>
営業利益	FY2024 4Q累計	230	13	24	11	275
	<b>FY2025 4Q累計</b>	<b>320</b>	<b>12</b>	<b>24</b>	<b>8</b>	<b>353</b>
経常利益	FY2024 4Q累計	246	14	23	10	273
	<b>FY2025 4Q累計</b>	<b>340</b>	<b>13</b>	<b>34</b>	<b>9</b>	<b>354</b>

SJC：旧スカパー J S A T 株式会社

III：JSAT International Inc.

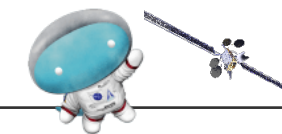
SPET：株式会社スカパー・エンターテイメント

JMC：JSAT MOBILE Communications株式会社

\* 2026年4月1日を効力発生日として、当社を存続会社、当社の特定子会社であるスカパー J S A T 株式会社を消滅会社とする吸収合併を実施

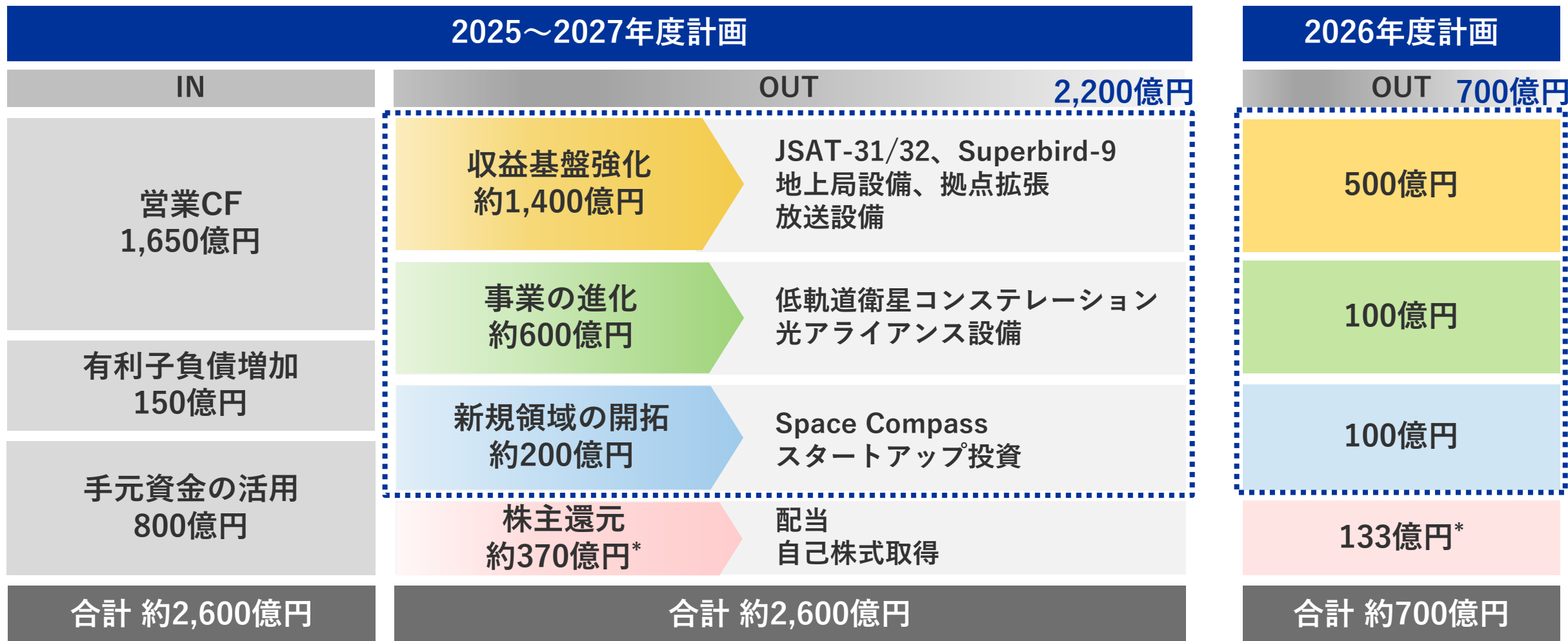
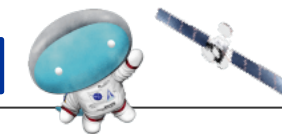
\* 2025年6月27日に株式会社スカパー・ブロードキャスティングの臨時株主総会にて解散を決議済み

\* 連結子会社であった株式会社スカパー・カスタマーリレーションズの株式を 2025年1月1日付で一部売却し、持分法適用会社化



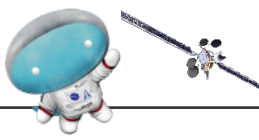
(億円)

	2025年度 期初計画	2025年度 実績 (a)	2026年度 計画 (b)	差異 (b)-(a)
① 設備投資	550	529	640	+111
内訳：				
宇宙事業	500	490	600	+110
メディア事業	50	38	40	+2
その他	0	1	0	△1
② 事業投資	150	134	60	△74
①+② 投資合計	700	662	700	+38



\*金額は支払ベース

# 2026年度 減価償却費計画



(億円)

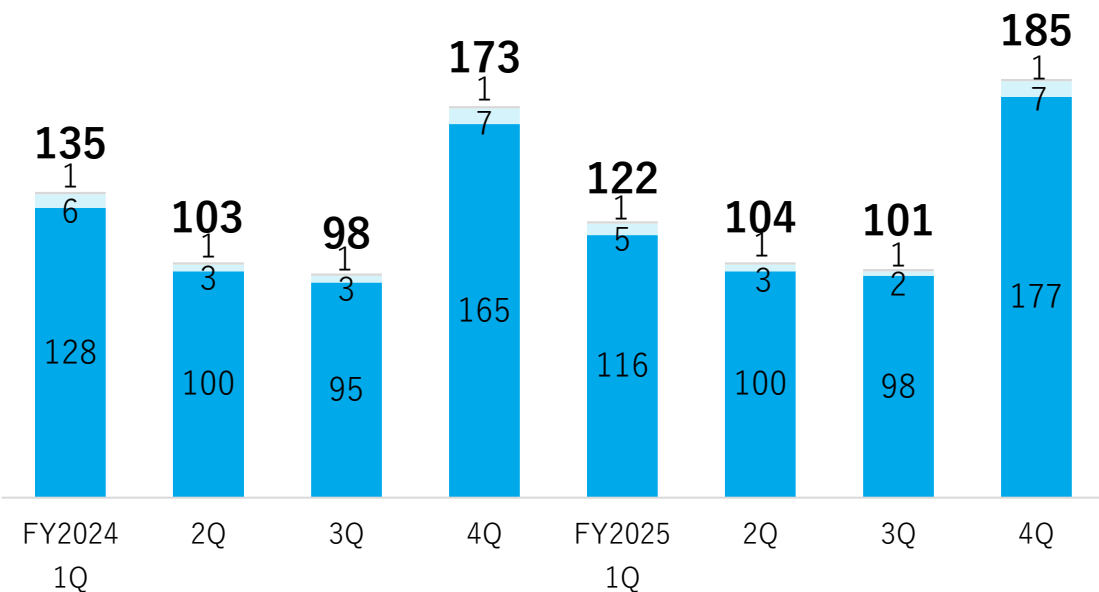
	2025年度 期初計画	2025年度 実績 (a)	2026年度 計画 (b)	差異 (b)-(a)
減価償却費	155	155	154	△0
内訳： 宇宙事業	112	111	114	+2
メディア事業	43	41	41	△0
その他	0	2	0	△2

	2024年度 実績	2025年度 加入目標	2025年度 実績	2026年度 加入目標
新規（IC数：万件）	50.9	48.9	51.1	45.1
純増数（IC数：万件）	△13.8	△12.9	△14.8	△8.6
（スカパー！）	(△8.0)	(△7.2)	(△9.3)	(△3.6)
（スカパー！プレミアムサービス）	(△5.5)	(△5.3)	(△5.2)	(△4.7)
（スカパー！プレミアムサービス光）	(△0.3)	(△0.4)	(△0.3)	(△0.3)
累計加入件数（IC数：万件）	260.2	247.3	245.4	236.8
累計契約者数（契約者数：万件）	201.0	188.7	188.0	176.1
光再送信サービス接続世帯数（万件）	286.1	295.5	297.0	307.8
契約者月額支払単価（円）				
スカパー！	3,380		3,409	
スカパー！プレミアムサービス	3,500	-	3,486	-
スカパー！プレミアムサービス光	4,947		4,898	

## ■ 新規加入件数（IC数）

(千件)

- スカパー！  
プレミアムサービス光
- スカパー！  
プレミアムサービス
- スカパー！

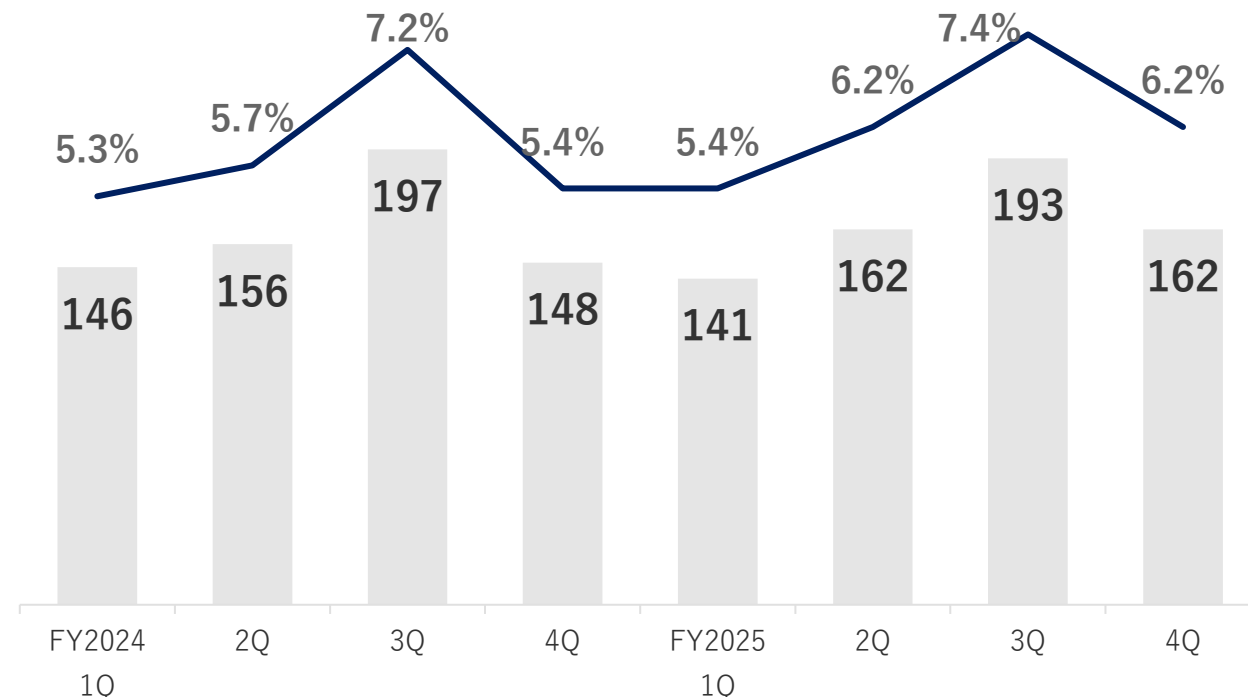


## ■ 解約件数・解約率（IC数）

(千件)

- 解約率\*(四半期毎)
- 解約件数

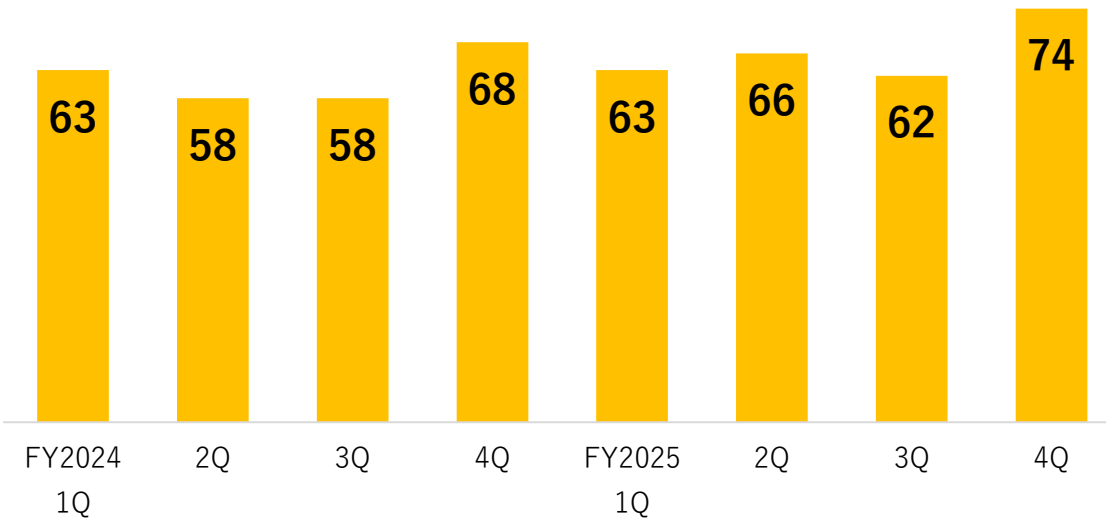
注：すべてスカパー！合計



\*各四半期の解約件数合計を前年度末の累計加入件数で除した率を表示

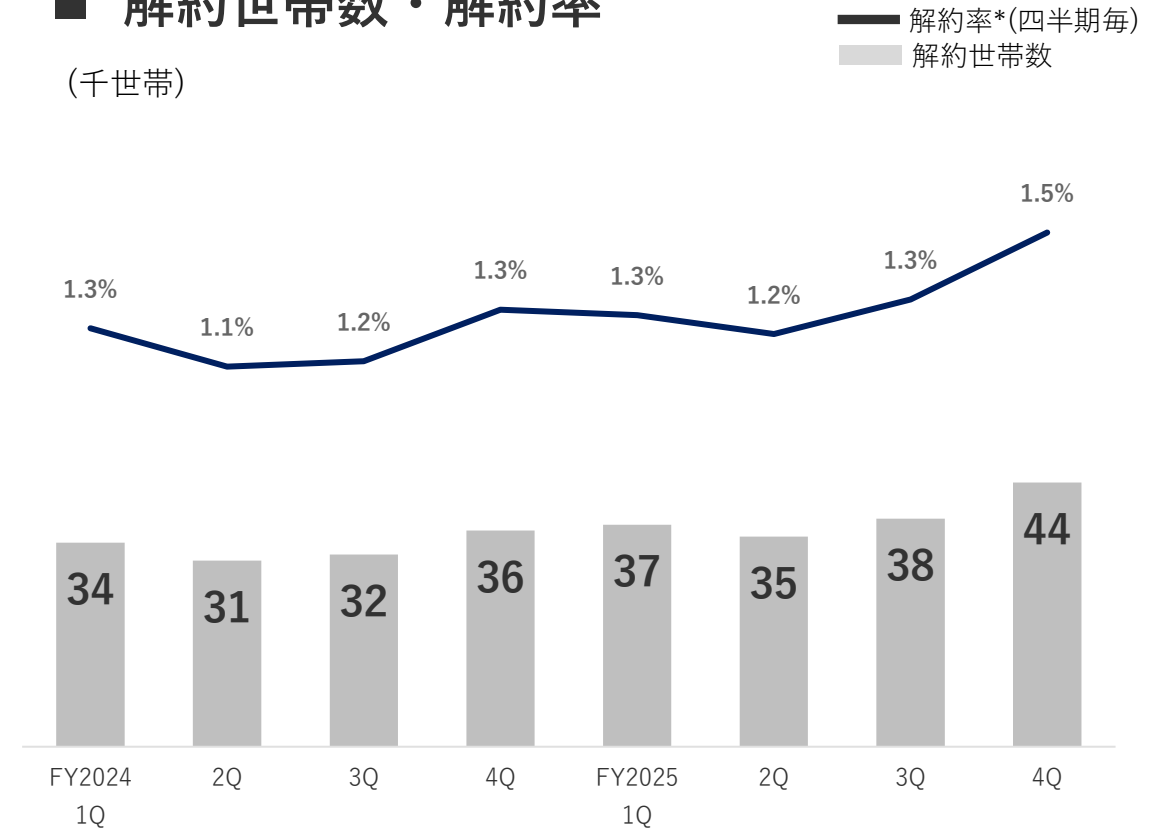
## ■ 新規接続世帯数

(千世帯)



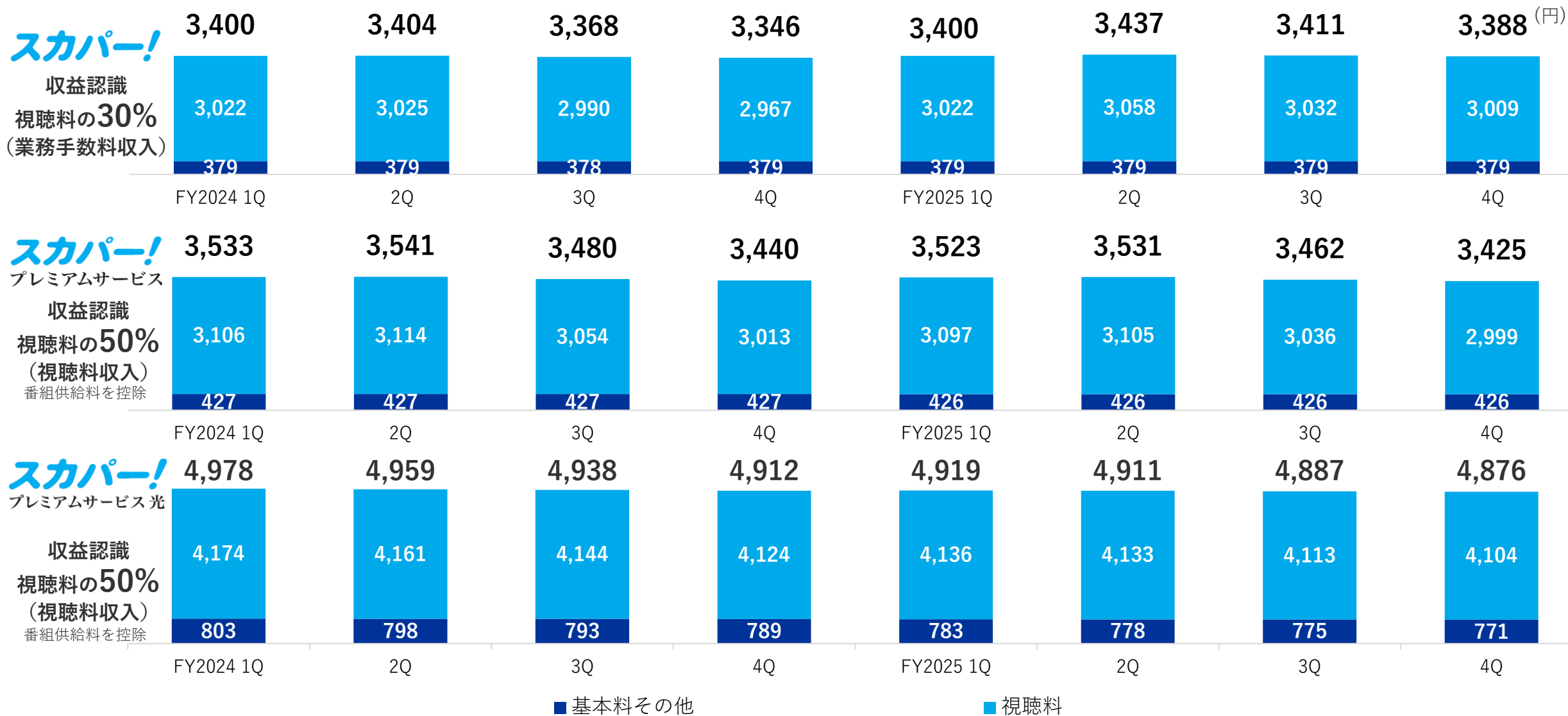
## ■ 解約世帯数・解約率

(千世帯)



\*各期間の解約数の合計を、前年度末の累計で除して算出

# 契約者支払単価<sup>\*1</sup>

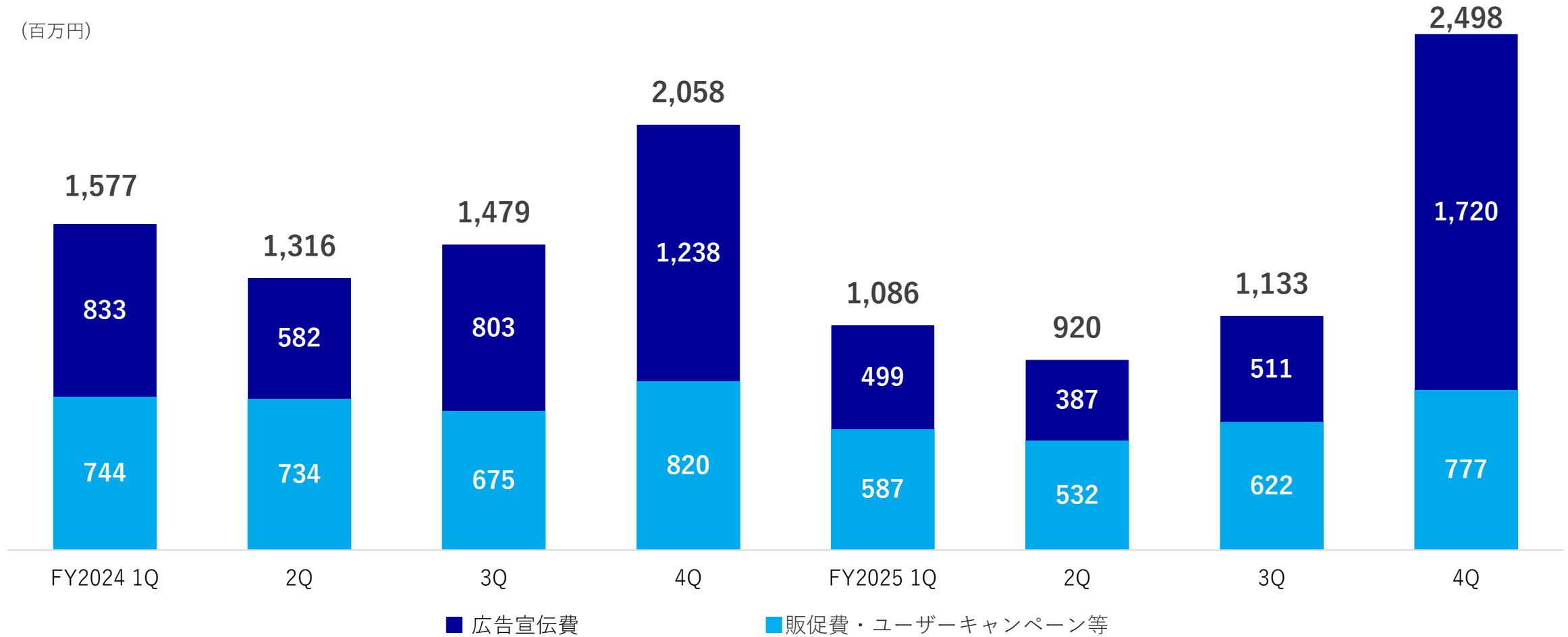


\*1 契約者が支払う月額視聴料等の平均単価。月額単価は「契約者」単位で算出しています。

\*2 基本料及びセットトップボックスレンタル料

# 顧客獲得費用総額 (SAC)

(百万円)



■ 広告宣伝費：各種媒体での広告宣伝費用

■ 販売促進費・ユーザーキャンペーン等：スカパー！加入促進のための費用、販売インセンティブ、カスタマーセンター運営費用

\* 2026年3月期第1四半期より集計方法を変更しており、2025年3月期の各数値についても再集計しています。

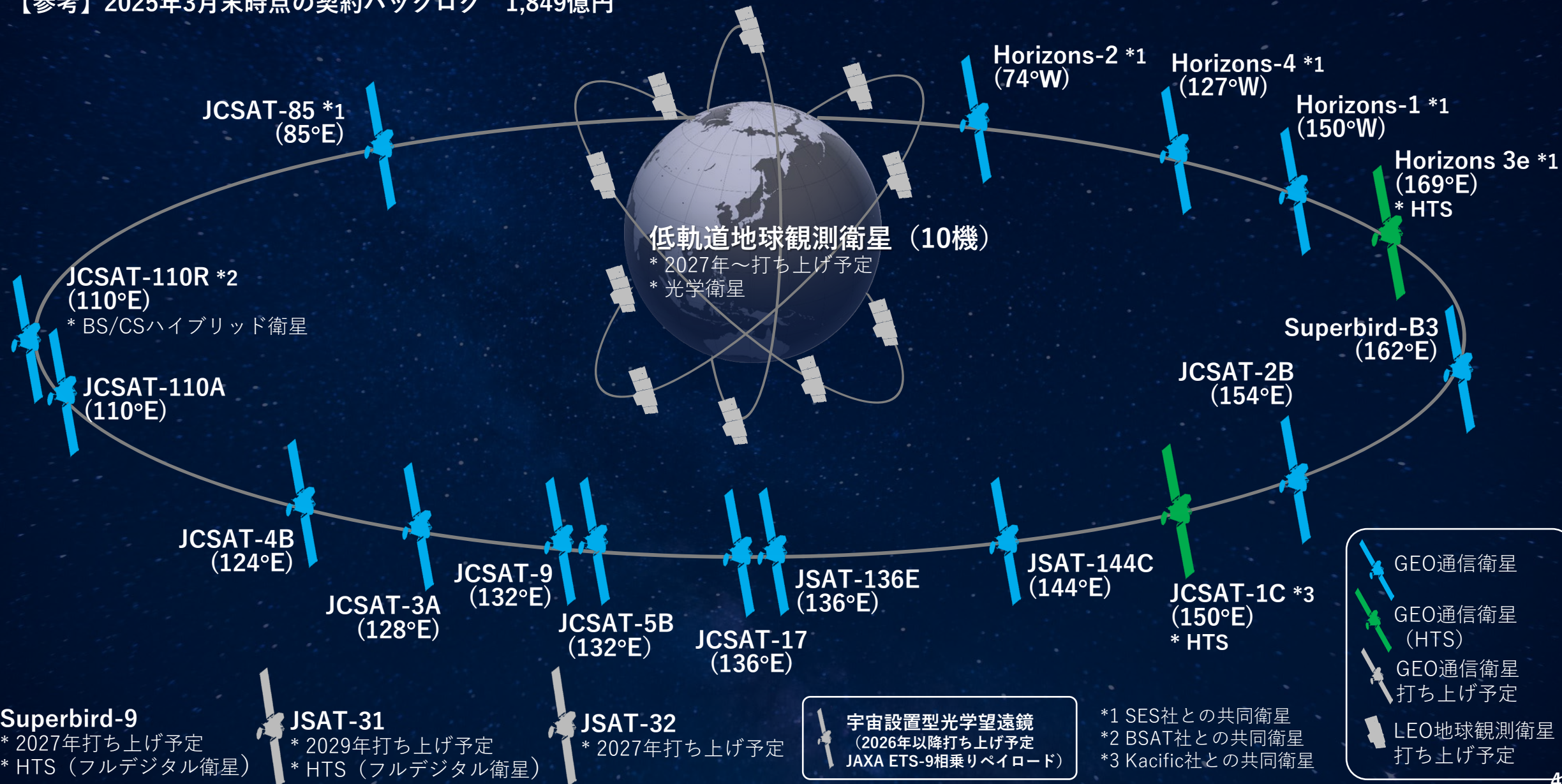
\* 2025年3月期第4四半期の数値について、2026年3月期第3四半期の開示数値から修正しています。

# 衛星フリート

(2026年4月時点)

## 北米上空からインド洋上空まで 計17機 のGEO通信衛星を保有

【参考】 2025年3月末時点の契約バックログ 1,849億円

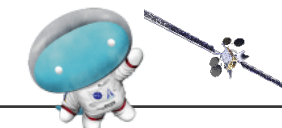


## 保有衛星：静止軌道衛星（GEO）17機（2026年4月時点）

衛星	軌道位置	衛星バス	打ち上げ年月日（JST）	打ち上げロケット	主要なカバーエリア・搭載ビーム	主な利用用途
Horizons-1	※1 西経150度	Boeing 601HP	2003年10月1日	Zenit-3SL（Sea Launch）	Ku: 北太平洋、北米	通信
JCSAT-9	東経132度	Lockheed A2100AX	2006年4月13日	Zenit-3SL（Sea Launch）	Ku: ー C: ー	通信
JCSAT-3A	東経128度	Lockheed A2100AX	2006年8月12日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: 日本、アジア C: アジア、ハワイ、ロシア	通信/放送
Horizons-2	※1 西経74度	Orbital STAR2	2007年12月22日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: 北米	通信
JSAT-136E （旧Superbird-C2）	東経136度	MELCO DS2000	2008年8月15日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: 日本 C: ー	通信
JCSAT-5B	東経132度	Lockheed A2100AX	2009年8月22日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: 日本 C: アジア、ハワイ、ロシア東部	通信
JCSAT-85	※1 東経85度	Orbital STAR2	2009年12月1日	Zenit-3SL（Sea Launch）	Ku: West IOR, East IOR	通信
JCSAT-110R	※2 東経110度	Lockheed A2100AX	2011年8月7日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: 日本	放送
JCSAT-4B	東経124度	Lockheed A2100AX	2012年5月16日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: 日本、東南アジア、2つの可動ビーム	通信/放送
JCSAT-2B	東経154度	SSL1300	2016年5月6日	Falcon 9（SpaceX）	Ku: 日本、アジア、パシフィック C: ロシア、アジア、オセアニア、グローバル	通信
JSAT-144C （旧JCSAT-16）	東経144度	SSL1300	2016年8月14日	Falcon 9（SpaceX）	Ku: 日本	通信
JCSAT-110A	東経110度	SSL1300	2016年12月22日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: 日本、インド洋、オセアニア	放送
Superbird-B3	東経162度	MELCO DS2000	2018年4月6日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: 日本、可動ビーム	通信
Horizons 3e	(HTS) ※1 東経169度	Boeing 702MP	2018年9月26日	Ariane 5（Arianespace）	Ku: アジア、パシフィック C: ゲートウェイビーム	通信
JCSAT-1C	(HTS) ※3 東経150度	Boeing 702MP	2019年12月17日	Falcon 9（SpaceX）	Ku: アジア、パシフィック、ロシア、HTS Ka: HTS Gateway	通信
JCSAT-17	東経136度	LM2100	2020年2月19日	Ariane 5（Arianespace）		通信
Horizons-4	※1 西経127度	Maxar 1300	2023年8月3日	Falcon 9（SpaceX）	Ku: 北米、太平洋	通信

※1 SES社との共同衛星／※2 BSAT社との共同衛星／※3 Kacific社との共同衛星

# 直近の主なニュースリリース



日付	タイトル（クリックで該当リリースにリンク）
2026年4月27日	<a href="#">スカパーJ S A T、Forward Edge-AI Japanと衛星通信向け耐量子暗号（PQC）技術の実証実験に関する覚書を締結</a>
2026年04月24日	<a href="#">スカパーJ S A T、小型SAR衛星による地表変動解析の観測機会を特定する新システムを開発 -世界初、観測機会最適化システムにより、有効データ取得率が約12倍に向上-</a>
2026年04月13日	<a href="#">Space Compass、Apolink、JSAT Internationalの3社、光データリレー協業検討に向けたMOU（覚書）を締結</a>
2026年04月03日	<a href="#">スカパーJ S A T、NASA月探査計画「アルテミスII」にて宇宙船「Orion」からの信号受信・測定に成功 ～アジアの民間企業で唯一、地上から有人月探査ミッションに協力～</a>
2026年04月02日	<a href="#">2026年3月末現在 加入件数について</a>
2026年04月02日	<a href="#">日本無線が選定された防衛省の公告「マルチオービットに対応した通信システムの抗たん化技術開発・実証」の 推進に向け、日本無線・スカパーJ S A T・シャープが連携</a>
2026年03月31日	<a href="#">取締役の担当変更および人事異動等に関するお知らせ</a>
2026年03月23日	<a href="#">Space CompassとSWISSto12による GEO光データリレー衛星（1号機）の調達契約の締結について</a>
2026年03月19日	<a href="#">スカパーJ S A T発のスタートアップ 株式会社Orbital Lasers、シリーズAラウンドで30.2億円の資金調達を実施</a>
2026年03月12日	<a href="#">株式会社スカパー・ピクチャーズ発行済株式の一部譲渡に関するお知らせ</a>
2026年03月10日	<a href="#">スカパーJ S A T、「健康経営優良法人2026（大規模法人部門）」に認定</a>
2026年03月06日	<a href="#">当社子会社による株式会社Q P Sホールディングスの第三者割当増資引受について</a>
2026年03月03日	<a href="#">2026年2月末現在 加入件数について</a>
2026年02月20日	<a href="#">防衛省と「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」に係る事業契約を締結 - 特別目的会社における本事業の推進について-</a>
2026年02月20日	<a href="#">組織変更及び人事異動のお知らせ</a>

本資料に関するお問い合わせは、下記担当部までお願い致します。

スカパーJ S A T株式会社 広報IR部

TEL : 03-5571-1515

E-Mail: [ir@skyperfectjsat.co.jp](mailto:ir@skyperfectjsat.co.jp)



IRニュース

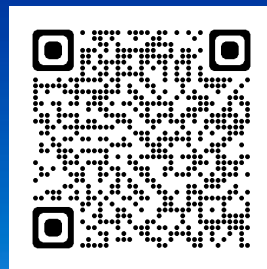
[https://www.skyperfectjsat.space/ir/ir\\_news](https://www.skyperfectjsat.space/ir/ir_news)

メール配信サービスはこちらよりご登録ください

<https://www.skyperfectjsat.space/ir/mail/>

IR、企業広報に関するプレスリリース及びイベント等を電子メールでお届けします

X



LinkedIn



YouTube

